

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

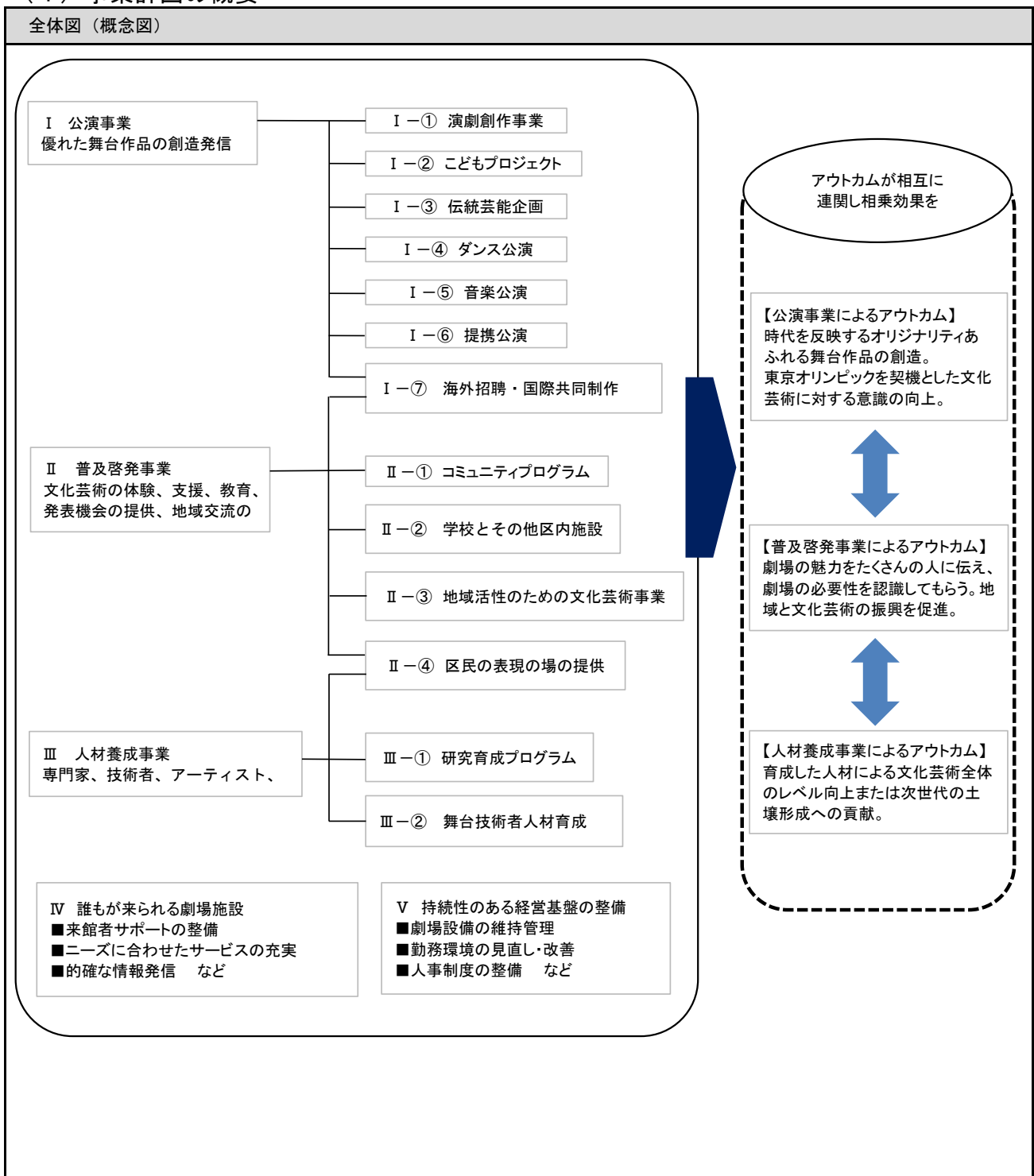
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人せたがや文化財団
施 設 名	世田谷文化生活情報センター (世田谷パブリックシアター)
助成対象活動名	世田谷パブリックシアター 劇場・地域の文化芸術振興事業
助 成 期 間	3 (年間)
内 定 額	57,613 (千円)

事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フリーステージ	2018年4月29日、4月30日、5月4日、5月6日	出演：世田谷区民を中心とした約65団体	目標値	2,300
		世田谷パブリックシアター・シアタートラム		実績値	3,352
2	狂言劇場	2018年6月22日～24日、6月29日～7月1日	演目：『附子』『鷹姫』『檜山節考』他 出演：野村万作、野村萬斎 他	目標値	2,250
		世田谷パブリックシアター		実績値	3,166
3	せたがやこどもプロジェクト ダンスワークショップ	2018年7月21日～8月20日	講師：井出茂太、目黒陽介、斉藤美音子 他	目標値	80
		世田谷パブリックシアター 稽古場 他		実績値	38
4	世田谷アートタウン 三茶de大道芸	2018年10月20日、21日	出演：海外・国内のパフォーマー48組	目標値	200,000
		三軒茶屋周辺、近隣商店街		実績値	198,000
5	世田谷アートタウン 海外招聘公演	2018年10月19日～21日	出演者・スタッフ：サーカス シルクール	目標値	1,060
		世田谷パブリックシアター		実績値	1,177
6	現代能楽集区	2018年10月5日～17日	演出：小野寺修司 出演：小林聡美、貫地谷しほり 他	目標値	2,300
		シアタートラム		実績値	3,001
7	森新太郎演出作品『The Silver Tassie 銀杯』	2018年11月9日～11月25日	演出：森新太郎 出演：中山悠馬、矢田悠祐 他	目標値	10,369
		世田谷パブリックシアター		実績値	6,340
8	戯曲リーディング	2018年12月3日～9日	演出：小山ゆうな 出演：北乃きい、篠山輝信	目標値	450
		シアタートラム		実績値	385
9	爆笑寄席●てやん亭	2019年1月18日	出演：林家木久扇、林家木久蔵 他	目標値	350
		世田谷パブリックシアター		実績値	630
10	栗山民也演出作品『チャイメリカ』	2019年2月3日～2月24日	演出：栗山民也 出演：田中圭、満島真之介、倉科カナ 他	目標値	8,800
		世田谷パブリックシアター		実績値	14,071
11	小川絵梨子演出作品『熱帯樹』	2019年2月17日～3月8日	演出：小川絵梨子 出演：林遣都、岡本玲、栗田桃子 他	目標値	3,400
				実績値	4,976
12	海外招聘舞踊公演 ストップギャップ	2019年3月8日、9日	出演者・スタッフ：ストップギャップ	目標値	600
		世田谷パブリックシアター		実績値	601
13	シアタートラム ネクスト・ジェネレーション	2019年11月29日～12月2日	出演団体：らまのだ	目標値	700
		シアタートラム		実績値	904
14	中学生演劇支援	2018年10月～11月4日	世田谷区立中学校演劇部合同発表会を劇場スタッフが支援	目標値	300
		490		実績値	490
15	ダンス食堂	2019年1月15日、2月5日	講師：勝山康晴、平山素子	目標値	105
		世田谷文化生活情報センター		実績値	29

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
16	Technical Theatre Training Program 2018 舞台技術養成講座	2018年5月10日～13日、 10月26日～28日	講師；熊谷明人、柘植幸久、小笠原康 雅 他	目標値	250
		世田谷パブリックシア ター		実績値	226
17	移動劇場 @ホーム公演	2018年4月20日～5月13日	演出：ノゾエ征爾 出演：山本光洋、たにぐちいくこ 他	目標値	900
		世田谷区内福祉施設等		実績値	850
18	せたがや子どもプロジェ クト 子どもとおとなの ための◎読み聞かせ『お 話の森』	2018年8月4日、5日	出演：ROLLY、片桐仁	目標値	720
		シアタートラム		実績値	954
19	せたがや子どもプロジェ クト『Jazz for Kids』	2018年8月18日、19日	出演：日野皓正、Dream Jazz Band 他	目標値	800
		世田谷パブリックシア ター		実績値	825
20	地域の物語	2018年6月～2019年3月17 日	世田谷の近隣住民とシンガポールのネ セサリーステージによる共同制作	目標値	75
		シアタートラム 他		実績値	342
平成30年度の目標値、実績値				目標値	170,000
				実績値	220,974

【妥当性】

自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

公演事業：公共劇場として「高品質な舞台芸術作品の創造」とともに、「公共劇場ならではの廉価な料金設定により多くの一般観客や次世代を担う若年層にも広く観劇の機会を提供する」ことを目的とした。前者については「創造性」の項目で詳述する。

後者については、補助対象事業の料金の平均額は、演劇で最高額が5,514円、最低額が1,857円であった。当劇場にて提携および貸館として実施した公演の平均額はそれぞれ6,771円、4,441円であり、補助対象事業のチケット料金を廉価に設定することができた。ダンス公演、音楽公演についても同様の結果となった。

補助対象事業においては本補助金および協賛金等を活用することで最低料金を安価に抑えることが可能となっており、子供や高校生・大学生を対象とした大幅な割引料金を設定することで、「若年層に広く観劇の機会を提供する」という目的を達成することができた。

普及啓発事業：地域や行政との連携により、多数の参加者を集めることで劇場の魅力や存在意義を伝え、文化芸術に関心がなかった人たちを巻き込む機会を創出した。先述の廉価なチケット料金の設定は、関心を持った層が実際に劇場に足を運ぶハードルを下げるために大きな力となっている。加えて、社会や地域のニーズに敏感に反応しつつ、柔軟に新しい事業を企画・実施した。本年度は、長期休暇の後に子どもの自殺が増える、いわゆる「9月1日問題」への対策の一つとして、近隣地域在住の中学生を対象に、学校以外の年齢の近い人々となつながら、居場所をみつけるきっかけをつくることを目的としたワークショップ事業を実施した。同事業はメディアでも大きく取り上げられ、劇場がコミュニティにおいて果たしうる新たな役割を示すものとなった。今後も同様のワークショップを定期的で開催していく予定である。

人材養成事業：「ダンス食堂」(15)においては、当劇場で上演した提携公演と連動する形で実施した。ダンサーや振付家によるレクチャーを通じて、実際に上演されている作品を深く理解する機会を提供することができ、公演事業への関心を高める効果もあった。また、公募によって選出された若手劇団に上演機会を提供する「ネクスト・ジェネレーション」(13)に選出された劇団「らまのだ」の演出家はシアタートラムでの上演を目指してこれまで活動してきたと述べており、当劇場がこれまで実施してきた質の高い公演事業に対する評価が応募への強い動機づけになっていることが確認できた。本年度の受賞団体は、これまで座付き作家の作品のみを上演していたが、その後の公演ではハロルド・ピンター作品を取り上げるなど新しいステップを踏み出しており、活動の幅を広げる一つの転機となったと思われる。

※事業名の後の（）内の数字は補助対象事業番号。以下同様。

【有効性】

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

公演事業：①年間5～6作品、②国際交流年間2作品以上、③平均入場者率75%を指標としたが、①大型主催公演としては6作品を制作し、目標を達成した。

また②国際交流公演として2作品を招聘するとともに、「地域の物語」では長期にわたって海外の参加者と交流する新しい試みをおこなった。こうした取り組みにより、当初計画したアウトカムを得られたと考える。

③補助対象公演事業の平均入場者率は82.0%で目標を達成した。平成29年度と比較すると、平均入場者率は3%低下したが、事業ごとの入場者率を見ると、90%を超える公演数が増加している一方で、75%未満の公演数も増えている。集客を見込める公演については確実に入場者を確保する一方、実験的な作品はリスクを負っても実施する方針が機能したと思われる。また、広報・営業努力もあり、チケット単価は前年度と同水準を維持しつつ、収益率は改善している。

普及啓発事業：①ワークショップ・レクチャーは事業数58件、延べ参加者数18,146人の実績を上げるとともに、②地域団体参加型事業である「フリーステージ」(1)では65団体が参加し、いずれも目標を達成した。③地域と協働したフェスティバル型事業である「三茶de大道芸」(4)の来場者は198,000人で目標に若干届かなかったが、その大きな要因は降雨であったと思われる。街中でのフェスティバルは気象条件に大きく左右されるが、雨天時にも一定の成果をあげるための方策を今後も検討していきたい。

人材養成事業：「舞台技術講座」(16)では、東京以外からの参加者がアンケート有効回答者の6割近くとなり、能力向上だけでなく、参加者間のネットワーク構築に資することができた。人材養成事業全体では延べ759人の参加者を集め、目標を達成した。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

入場料等収入については、公演内容が固まっていない段階では予測が難しい部分があり、平成30年度については当初予定額を下回る事業が出る一方で、「栗山民也演出作品『チャイメリカ』」(10)や「小川絵梨子演出作品『熱帯樹』」(11)では予定額を上回る結果となった。近年ではキャスティングによってチケット売り上げが大きく左右される傾向が顕著であり、出演者決定後にテレビ等の影響によって当初見込みから大きく変動する事例も数多くみられる。当劇場としては、このような不確定要素があることに留意しつつ、芸術的要素とマーケティング的要素をバランスさせ、持続可能な形で「現代を反映するオリジナルティあふれる舞台作品を創造し、当劇場が発信源となり再演可能な新たなレパートリーとなる作品を拡充する」というアウトカムを実現する取組をおこなっていく。

事業実施期間は、公演事業についてはほぼすべて予定通りの期間・回数で実施した。ただし、「小川絵梨子演出作品『熱帯樹』」(11)については、チケット売り上げが極めて好調で入手困難な状況となったため、計画よりも1回公演数を増やして実施した。

普及啓発事業、人材育成事業についてもほぼ計画通りの実施となったが、長期間にわたるワークショップについては、講師の都合等もあり、若干の日程変更をおこなっている。比較的大きな変更となった「ダンス食堂」(15)については、同事業で取り上げる提携ダンス公演のうちの1本が年度末の上演となったため、本年度中の開催が不可能となったことが大きく影響した。

ほぼ予定に沿った期間・回数で事業実施をおこなったうえで、指標として掲げた数値をほとんどすべて達成することができたことから、効率的な事業運営をおこなうことができたと考える。

【創造性】

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

「公演事業」「普及啓発事業」「人材養成事業」を3本の柱として事業を展開している。さらに、区立の施設という特性から「地域」に軸足を置きながら、「日本」を代表する作品を創造し、「世界」とつながるという、ダイナミックな公共劇場のイメージ・モデルの確立を目指している。劇場を中心とした「地域」「日本」「世界」への波及が当劇場の創造性の優れた要素である。芸術監督である野村萬斎はこれを“同心円”と表現し、「世田谷を中心に地域を同心円的に拡がりのある、時代を写す鏡のような劇場にした」と述べている。

「地域」に関しては地域住民の「行きつけの劇場」となるべく、多様な普及啓発事業および区民や商店街と連携した事業を実施している。劇場と近隣住民が協力して実施する「フリーステージ」(1)「世田谷アートタウン 三茶de大道芸」(4)をはじめ、「お話の森」(18)「Jazz for Kids」(19)は、子ども、家族を主な対象とした「せたがや子どもプロジェクト」の一環として事業を展開している。開場以来継続しているコミュニティ・シアター事業である「地域の物語」(20)では、平成30年度はシンガポールの劇団ネセサリー・ステージとの共同作業を実施した。同劇団とは平成14年以来関係を築いてきており、密度の濃い交流事業となっている。住民同士が交流しつつ、自らの物語を語る企画であり、新しい形の国際共同制作のモデルを構築した。

「日本」「世界」に関しては、「地域性、同時代性、普遍性」「伝統演劇と現代演劇の融合」「レパートリーの創造」を指針に据えた独創的な舞台芸術を創造発信している。芸術監督の野村萬斎の存在は、その実現のための基盤となっている。

また、海外招聘公演を継続的に実施し、ロベール・ルパージュ、サイモン・マクバーニー、ジョセフ・ナジなど、世界的に高い評価を受けている演出家・振付家と関係を築いてきている。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

平成30年度は、特に「チャイメリカ」(10)「熱帯樹」(11)は連日立ち見が出る程の盛況となった。新聞の劇評ではそれぞれ「われわれは歴史や社会や、パーソナルな愛などについて自問することになる」

「俳優の切実な演技を見るうちに愛の尊さ、生のエネルギーも描いていることに気づいた」と評され、作品の社会的意義や芸術性が評価された。出演者の人気も来場者を呼び込む一因となり、多くの人に劇場へ来場するきっかけを提供することができた。

障害者も健常者も分け隔てなく舞台に立ち、芸術性の高い作品を創造するイギリスのインクルーシブダンスカンパニー・ストップギャップの「エノーマスルーム」(12)では、パフォーマンスアーツの新たな形や可能性を提唱することができた。

平成30年度は公共劇場としての新たな試みを拡充した。中学生を対象とした夏休み、春休みの最後の一日を劇場で過ごすというワークショップはその一例である。不登校や引きこもりに悩む中学生を対象とし、劇場が果たすべき役割の一つである社会包摂の機能を担った。同事業はマスコミ等でも取り上げられ、大きな反響があった。

劇場に対する評価が最も客観的に表れているものとして、演劇賞の受賞が複数あった。第26回 読売演劇大賞において、「岸 リトラル」(平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業)が作品賞を受賞し、公共劇場では唯一の受賞となった。当劇場主催事業が関連した受賞として、「岸 リトラル」に出演した岡本健一が同最優秀男優賞、「The Silver Tassie 銀杯」(7)に出演した横田栄司、「シャンハイムーン」に出演した山崎一が優秀男優賞を受賞した。また、「パリーターク」が第11回 小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した。

【持続性】

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

持続的に事業を展開し、アウトカムの発現と定着を実現するため、組織体制の強化を推進している。平成29年12月に「世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針」、平成30年1月には「公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画」を策定した。総合職員や専門職員といった適材適所の配置、無期雇用への転換、職員登用制度の整備などに積極的に取り組んでいる。また、世田谷区の「外郭団体行動計画」に従い、PDCAサイクルを機能させるべく取り組んでいる。

ネットワークについては、当劇場で企画制作した作品のツアー公演を実施し、各地の劇場とのネットワークを構築するとともに、質の高い作品の観賞機会を提供している。その際、ネットワーク強化支援事業も活用している。平成30年度はKAAT神奈川芸術劇場と共同制作を行い、近隣の劇場とのネットワーク構築も行っている。また、「劇場、音楽堂等連絡協議会」「全国公立文化施設協会」等に加盟し、情報交換や新たなネットワークの構築に努めている。

財政面においては、企業からの協賛金、公的機関からの助成金も獲得し、安定した経営を目指している。劇場事業全体および個別事業に対し協賛金を頂き、各種サービスを展開している。

また、「世田谷パブリックシアター友の会」が組織されており、劇場開場当初から財団と協定により、相互協力及び支援を実施している。特別会員（年会費一口50,000円）、賛助会員（年会費一口10,000円）、一般会員（入会金500円、年会費3,000円）の3種類を設定し、特典として先行販売やチケットの割引等のサービスを提供している。このような会員組織は劇場の経営基盤の一部を担っている。

さらに、今後の中長期的な劇場運営を視野に入れ、外部機関による劇場の事業評価等の調査の準備を進めている。